



春が来た



副会長 野村 哲

会員園の皆様におかれましては、ご活躍の事と存じます。

今年の正月はとても驚きました。能登半島で発生した地震災害は、甚大な被害をもたらし、連日その被害の大きさが、テレビ画面や新聞紙上等を通して報道されました。今はライフラインも少し復旧したようですが、まだまだ復興には時間がかかりそうです。家屋の倒壊やインフラの破壊のみならず、今回の地震では海岸の隆起により地形が変わり、それまで漁業を生業としていた人々にも甚大な被害を及ぼしたりと、その影響は多岐にわたっています。悲しい思いをした方々の傷は癒えることがないと思うと、「頑張って」とテレビ画面へ声をかけることしかできません。被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、災害はいつどこで起こるかわかりませんが、対岸の火事と捉えずに、我々もしっかりと備えておきたいと思います。

さて、保育界の目の未来は、少子化を除けばとても明るいと感じます。

皆様のご尽力が行政へ伝わり、努力が報われつつある状況かと思いますが、しかし、目下最大の課題は「少子化」という現実です。「とうとう春が来た」と浮かれているとは思いませんが、子育て施策に予算を付けても、一向に少子化に歯止めがかからないと分かれば見捨てられてしまいかねません。従って、我々はこれからも、保育の質を上げる努力を続けて行く必要があると思います。そしてこの保育制度をより逞しく盤石な制度とし、子ども達の未来と日本の未来を築く一助としましょう。

私は、保育こそが希望の源です。私をよくご存じの方は本当かいとお疑いがあるようですが、事実です。希望という言葉は、いい響きです。大和言葉では「のぞみ」と言うそうです。パンドラの箱からはいろいろな災厄が飛び出してきましたが、最後に飛び出したのは希望でした。そのおかげで、人間は絶望せずに生きる事ができたと言われていました。

路の表題である「春が来た」は気持ちだけでも明るい未来を想像させてくれるとの思いから付けました。

のぞみを胸に今年も進んで行きましょう。

